

## 県民アンケート調査の結果について

### 1. 調査の目的

ぐんま緑の県民税は、令和5年度で2期の5年が終了することから、令和6年度以降の制度のあり方について検討を行う必要があります。検討に際し、ぐんま緑の県民税に対する県民の意識を把握し、検討の資料とするため、県民アンケート調査を次のとおり実施しました。

### 2. 調査の内容

- ・ 調査対象 県内在住の満 18 歳以上の男女 2,200 人
- ・ 抽出方法 選挙人名簿から無作為抽出
- ・ 調査方法 調査票を郵送
- ・ 調査時期 令和4年 7 月～8 月
- ・ 有効回答数 908 件(回収率 41.3%)
- ・ 調査依頼 調査の前提として、「平成 26 年度から「ぐんま緑の県民税」を導入し、納税者の方から年額 700 円を納めていただき、財源をぐんま緑の県民基金に積み立て、奥山の森林の整備や地域住民のボランティア団体等が行う、里山・竹林の整備等に活用させていただいている」こと、「令和 6 年度からは、国の森林環境税が施行され、両税の目的・役割を踏まえ、協力しながら、双方の取組により、県内の森林整備がさらに進んでいくよう努める」ことを説明。

### 3. 調査結果

#### (1) 期待する森林の働きについて

山崩れや洪水などの災害防止機能、地球温暖化防止機能については 8 割以上の回答者から期待されている結果となりました。

また、これ以外にも水源涵養機能へ期待するとの回答が多い結果となりました。全項目に対し4割以上の回答者から、期待するとの回答がありました。

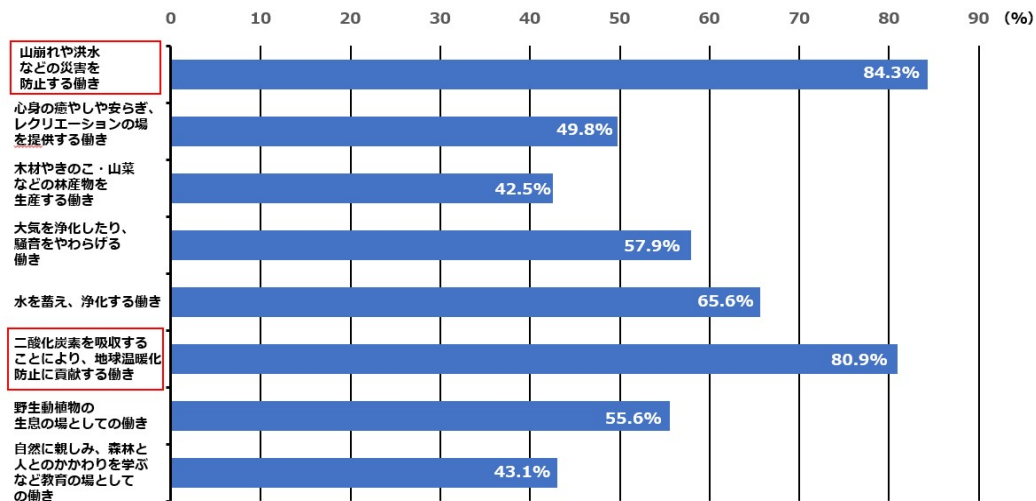


図 1 森林に期待する役割について

## (2) 「ぐんま緑の県民税」の認知度について

回答者の約 3 割は名称を知っているものの、用途を理解しているのは 1 割に満たない結果となりました。

また名称、税額、用途ともに知らないとの回答は約 6 割でした。

年代別に見ると、高年齢層の認知度が高く、若年層ほど低い結果となりました。

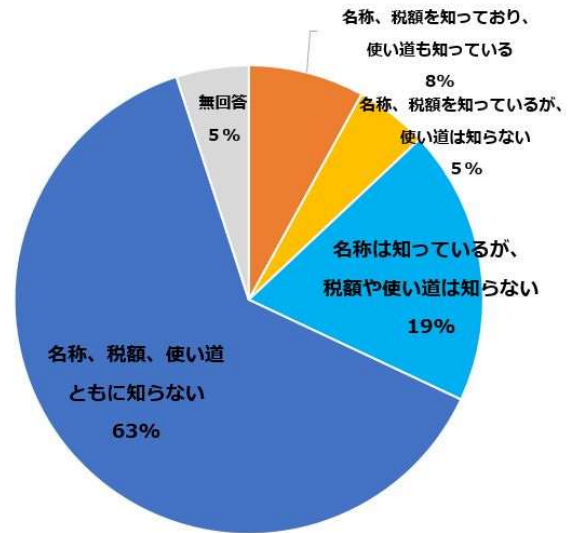


図2 「ぐんま緑の県民税」の認知度について

## (3) 「ぐんま緑の県民税」を活用した取組について

奥山で手入れ不足の杉やヒノキなどの森林整備や水源林の整備については、6割以上の回答者が大切な取り組みであると考えていることがわかりました。

次いで、身近な里山や竹林の刈り払いなどの整備、松枯れでヤブになった森林の整備が、高い結果となりました。

また、全項目に対し3割以上の回答者が大切な取り組みであると考えている結果となりました。

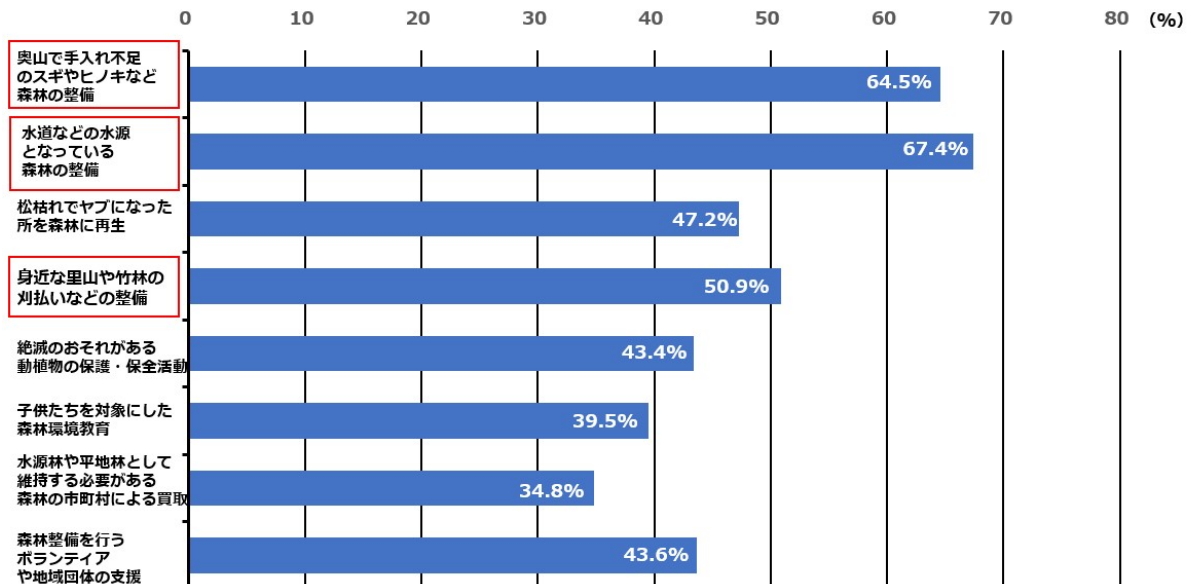


図3 「ぐんま緑の県民税」を活用した取組について

#### (4) 「ぐんま緑の県民税」の継続について

回答者の3分の2が賛成意見という結果になりました。一方、反対意見は1割未満と少ない結果となりました。

また、性別・年代別・地域別による集計において、特に大きな差は見られませんでした。

前回実施したアンケートでは、賛成、またはどちらかといえば賛成と回答した回答者が64%だったのに対し、今回は67%とわずかに増加しました。

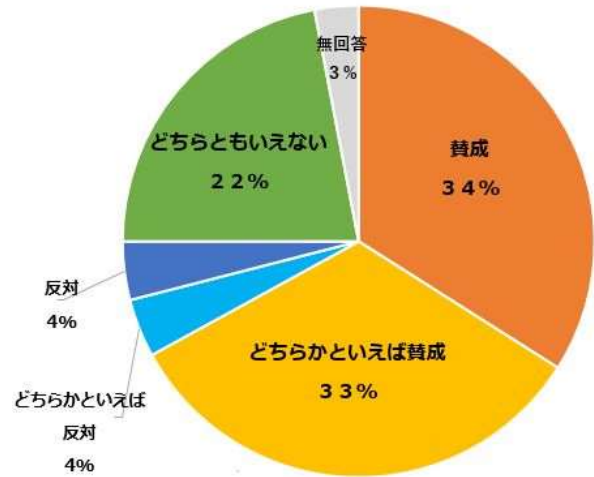


図4 「ぐんま緑の県民税」の継続について

#### (5) 「ぐんま緑の県民税」を継続した場合の取組について

道路沿線などの手入れ不足森林の整備、花粉発生源であるスギの植替えに対する期待が高いことがわかりました。

その他の意見では、森林環境教育の促進や林業従事者を増やす取組など様々な意見がありました。

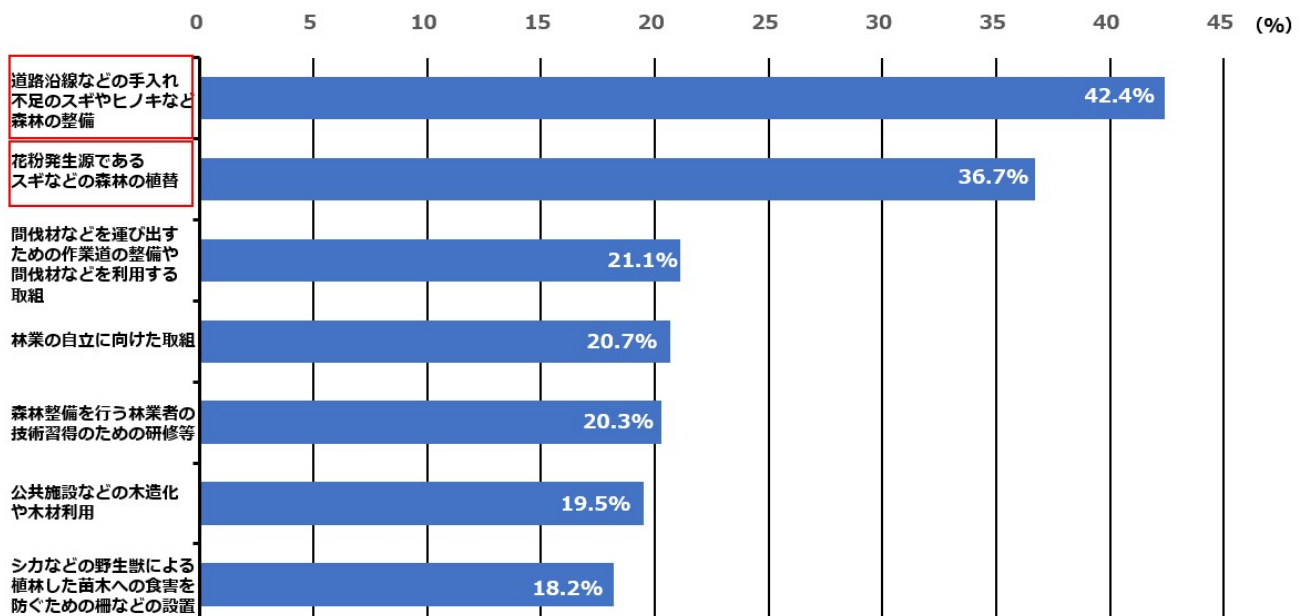


図5 「ぐんま緑の県民税を」の継続した場合の取組について(上位7項目)